# 部局ニュース

## 総合科学部

◆第3回教養講座が下記のとおり開催された。

日　時　平成元年10月25日
　　午後3時10分～4時50分
場　所　総合科学部305号教室
題　目　芸術・ひと・風土
　　――絵画の見方――
講　師　ひろしま美術館常任顧問大沢寛三氏

◆第4回教養講座が下記のとおり開催された。

日　時　平成元年12月6日
　　午後3時10分～4時50分
場　所　総合科学部305号教室
題　目　環境の社会史
　　――環境問題と住民の役割――
講　師　関西学院大学社会学部教授
　　鳥越皓之氏

## 文学部

本学文学部主催の“角筆展”が，去る平成元年12月8日(金)・9日(土)の両日，文学部会議室及び研究資料展示室（旧教育学部プレハブ）で開催された。“角筆については，広大フォーラム（21期5号・No.276, 1989.11.20）に掲載された小林芳規教授（国語学）の〈開かれた学問④「身近に眠っていた研究資料群―角筆文献の発見と新分野の開拓」―〉に簡明な紹介がある。今回の角筆展は，文学部研究資料室の開室を記念し，この“身近に眠っていた”，文学部の“角筆文献”などを，“開かれた学問”という近時の社会的要請に答えるべく，広く公開したものである。開催にあたって，三原市の御調八幡宮・市立図書館，本学理学部放電物理学研究室の協力を得，入場者は両日で300名を超えて，盛況であった。

## 医学部附属病院

◆平成元年12月22日(金)，医学部附属病院外来棟待合ロビーで，入院中の患者さんを主な聴衆に，恒例のクリスマスコンサートが開かれた。霞合唱団「ペガサス」のコーラスを皮切りに，広島在住のプロの声楽家，フルーティストの演奏，女性合唱など，バラエティーに富んだプログラムであった。霞合奏団による演奏には，耳鼻科の原田教授と原医研遺伝の隅田助手がバイオリンで，解剖の安田教授がフルートで加わり，さらに原田教授はテノールの美声を会場一杯に響かせ，コンサートを盛り上げた。フィナーレは患者さんと看護婦さんのクリスマス・ソングの合唱であった。コンサートの後には，各病棟でクリスマス会があり，入院患者さん達は楽しい一時を過ごされた。

## 生物生産学部

◆1月24日(水)，伊藤啓二学部長の任期満了に伴い，学部長選挙が行われた。新学部長に角田俊平教授（60歳）が選出された。

## 理論物理学研究所

理論研では，理論研が昭和19年8月に旧制広島文理科大学の附置研究所として創立されて以来，今年で45周年になるのを記念して，12月14日から3日間竹原市内で記念行事を開催した。

初日の大広苑での記念式には，広島大学長をはじめ竹原市の関係者等約120名が出席して45周年を祝った。このあと名古屋大学大貫教授等による記念講演，引き続き夕刻より祝賀会を開催した。

翌日から，竹原市青少年センターで行われた「素粒子・重力・宇宙」のシンポジウムには，東大宇宙線研，荒船所長をはじめ国内の研究者約100名が集い盛会裏に終了した。

## 原爆放射能医学研究所

これまで原爆被爆者の被爆線量推定には1965年に暫定的に設定された「T65線量推定方式」が使用されておりましたが，1975年頃よりこの方式に不備な点があるとの指摘がなされはじめ，正確な線量推定方式を設定するために1980年より日米合同の再評価委員会が発足しました。種々の検討の後，1986年に最終結論が得られ，「US-Japan Joint Reassessment of Atomic Bomb Radiation Dosimetry in Hiroshima and Nagasaki」なる報告書が1987年秋に出版されました。この報告書は本文だけでも431頁と膨大なもので，我々日本人にとってはその理解は，よほどの専門家でない限り，十分できない状態でした。そこで，広島大学原爆放射能医学研究所の将来問題検討委員会委員12名は2年がかりでその翻訳を行いました。

この翻訳書「広島および長崎における原子爆弾放射線量の日米共同再評価」は原爆被爆の後障害研究に携わる方々，放射線にかかわる医療関係者，広く原子力の安全性や環境問題に関心をもたれる人々，また特に原爆被爆者行政担当の各位が放射線の影響を正しく理解する上で大いに役立つものです。各学部図書館には謹呈しておりますが，もし広島大学関係者で必要な方がいらっしゃいましたら実費でお分け致します。